

タイトル「**2022年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
 シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1162		
科目名	教養特殊講義 2		
担当教員	福田弥夫 (デロイト)		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	木 3		
講義室		単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマ・ポリシー (D P) との関連</p> <p>DP3-G [状況把握力・判断力] 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。</p> <p>DP3-H [論理的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。</p> <p>DP7-C [他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。</p> <p>■ C Rコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C R) との関連</p> <p>CP3-G1 状況把握(30%)</p> <p>CP3-H1 論理的思考(20%)</p> <p>CP3-H2 批判的思考(20%)</p> <p>CP7-C1 倫理的思考・社会認識(30%)</p>		
教員の実務経験	デロイトトーマツグループにおいて実際にコンサルタントとして、あるいは実務アドバイザーとして現役で業務提供している6名が、非常勤講師として各々の得意領域において講義を行うオン二バス形式の授業となります。全ての講師が10年以上の業務経験を持っています。		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 2 進行情 ~ 3 発展期		
科目概要・キーワード	<p>グローバル化が進む現代において企業が直面する様々な危機管理を、事例を通じて体系的に学ぶことにより、グローバルな視野を持ち、様々なクライシスの発生に対して冷静に的確に判断し、迅速に行動するための知識を学ぶ基礎的な内容の科目。</p> <p>キーワード：コーポレートガバナンス・グローバル経営・クライシスマネジメント・Readiness, Response, Recovery (3つのR)</p>		
授業の趣旨	<p>■ 副題 クライシスマネジメントの現場からの学び</p> <p>■ 授業の目的 企業におけるクライシスマネジメントの全体像を自分の言葉で語れるようになること</p> <p>■ 授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理の定義を体系的に理解する。 ・危機管理を考える上で重要なフレームワークを習得する。 ・グローバルな視点で事柄を把握し、自分の頭で考える思考力を身につける。 ・コーポレートガバナンスの考え方を理解し、組織運営における課題の分析力を身につける。 ・危機に直面した場合の組織の行動のあり方を理解し、実際に応用できる素養を身につける。 		
総合到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の企業が直面する危機とは何かを体系的に説明できる。 ・企業の経営環境変化がもたらした企業の危機のトレンドを説明できる。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の危機管理の3段階のアプローチ（3つのR）を学び、自らの危機対策を設計できる。 ・企業の危機対応事例に触れ、どうすればより良い結果につながったかを批判的に思考できる。 										
成績評価方法	<p>■授業参加状況（15回）80% 適用ルーブリック：C1, G1, H1, H2 （評価の観点）リアクションペーパー又は授業中の課題について、理解の正確性、構成の適切さを中心に評価します（70%）。授業での発言状況も積極性の指標として評価に加味します（10%）。 （フィードバックの方法）リアクション・ペーパーや課題の提出に引き続き、コメントします。</p> <p>■レポート提出状況（10回）20% 適用ルーブリック：C1, G1, H1, H2 （評価の観点）テーマの妥当性、構成の論理性、理解の正確性をみます。 （フィードバックの方法）レポート課題の趣旨、要件を詳細に解説します。</p>										
履修条件	特にありません。										
履修上の注意点	出席カードの提示だけでは出席とは認めません。授業に積極的に参加してください。										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>①授業テーマ 企業が直面するクライシスの体系と3つのRによる段階的対応（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 自然災害、不祥事等企業が直面するクライシスを体系的に整理し、企業にとってのクライシスマネジメントの重要性を確認、評価するとともに、いざクライシスが発生した際の対応だけでなく、事前の準備や事後対応（再発防止策）の有無、巧拙が、企業の将来を左右するという本講座の根幹となる考え方を、Readiness, Response, Recoveryの3段階で説明できるようにする。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習（120分） 過去12か月に発生した企業のクライシス例をWebで検索する。</p> <p>④復習（120分） 第一回講義のポイントをA4版1枚にまとめる（レポート提出）。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <p>①授業テーマ 海外企業、日本企業、日本の官公庁のクライシスマネジメント（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 クライシスマネジメントは海外、国内で大きく取り組みが異なり、日本国内でも企業と官公庁ではやるべきことが異なる。三者三様のクライシスマネジメントの特徴について比較分析する。</p> <p>③予習（120分） 企業のWebサイト、官公庁（特に危機管理部門、防災部門）のWebサイトを調べ、企業、官公庁がクライシスマネジメントに果たす役割を確認する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>④復習（120分） 授業を元に、企業のWebサイト、官公庁のWebサイトに掲載されている役割のほか、企業、官公庁に必要な役割をまとめる。（レポート提出）</p> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <p>①授業テーマ リスクマネジメントの概要と実践（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要（120分） 企業にとってのリスクマネジメントの重要性、全社的リスクマネジメント(ERM)の構築の概要等を学び、ガバナンス・リスク・コンプライアンス（GRC）の視点からRMはどうあるべきかを事例等を通して考察する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習（120分） 企業にとってのリスクについて、書籍、Web等を通じて調べ、その重要性について、認識を整理する。</p> <p>④復習 大手企業が開示している有価証券報告書の中の「事業等のリスク」を読み（違う業種のいずれか3社）、講義内容を踏まえ考察する。（提出不要）</p> </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> <p>①授業テーマ 日本企業の海外ビジネスの拡大と地政学リスク（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 日本企業のグローバル化の特徴、主要な海外ビジネスリスク等を学び、近年の世界的な政治・経済・社会情勢の急激な流動化に伴い、リスクが急速に多様化していることを習得する。 特に昨今急激に高まっている地政学リスクについても学び、日本企業が今後海外ビジネスを拡大する上での、管理手法等について、その基礎を習得する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ 企業が直面するクライシスの体系と3つのRによる段階的対応（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 自然災害、不祥事等企業が直面するクライシスを体系的に整理し、企業にとってのクライシスマネジメントの重要性を確認、評価するとともに、いざクライシスが発生した際の対応だけでなく、事前の準備や事後対応（再発防止策）の有無、巧拙が、企業の将来を左右するという本講座の根幹となる考え方を、Readiness, Response, Recoveryの3段階で説明できるようにする。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習（120分） 過去12か月に発生した企業のクライシス例をWebで検索する。</p> <p>④復習（120分） 第一回講義のポイントをA4版1枚にまとめる（レポート提出）。</p>	2	<p>①授業テーマ 海外企業、日本企業、日本の官公庁のクライシスマネジメント（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 クライシスマネジメントは海外、国内で大きく取り組みが異なり、日本国内でも企業と官公庁ではやるべきことが異なる。三者三様のクライシスマネジメントの特徴について比較分析する。</p> <p>③予習（120分） 企業のWebサイト、官公庁（特に危機管理部門、防災部門）のWebサイトを調べ、企業、官公庁がクライシスマネジメントに果たす役割を確認する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>④復習（120分） 授業を元に、企業のWebサイト、官公庁のWebサイトに掲載されている役割のほか、企業、官公庁に必要な役割をまとめる。（レポート提出）</p>	3	<p>①授業テーマ リスクマネジメントの概要と実践（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要（120分） 企業にとってのリスクマネジメントの重要性、全社的リスクマネジメント(ERM)の構築の概要等を学び、ガバナンス・リスク・コンプライアンス（GRC）の視点からRMはどうあるべきかを事例等を通して考察する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習（120分） 企業にとってのリスクについて、書籍、Web等を通じて調べ、その重要性について、認識を整理する。</p> <p>④復習 大手企業が開示している有価証券報告書の中の「事業等のリスク」を読み（違う業種のいずれか3社）、講義内容を踏まえ考察する。（提出不要）</p>	4	<p>①授業テーマ 日本企業の海外ビジネスの拡大と地政学リスク（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 日本企業のグローバル化の特徴、主要な海外ビジネスリスク等を学び、近年の世界的な政治・経済・社会情勢の急激な流動化に伴い、リスクが急速に多様化していることを習得する。 特に昨今急激に高まっている地政学リスクについても学び、日本企業が今後海外ビジネスを拡大する上での、管理手法等について、その基礎を習得する。</p>
回	内容										
1	<p>①授業テーマ 企業が直面するクライシスの体系と3つのRによる段階的対応（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 自然災害、不祥事等企業が直面するクライシスを体系的に整理し、企業にとってのクライシスマネジメントの重要性を確認、評価するとともに、いざクライシスが発生した際の対応だけでなく、事前の準備や事後対応（再発防止策）の有無、巧拙が、企業の将来を左右するという本講座の根幹となる考え方を、Readiness, Response, Recoveryの3段階で説明できるようにする。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習（120分） 過去12か月に発生した企業のクライシス例をWebで検索する。</p> <p>④復習（120分） 第一回講義のポイントをA4版1枚にまとめる（レポート提出）。</p>										
2	<p>①授業テーマ 海外企業、日本企業、日本の官公庁のクライシスマネジメント（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 クライシスマネジメントは海外、国内で大きく取り組みが異なり、日本国内でも企業と官公庁ではやるべきことが異なる。三者三様のクライシスマネジメントの特徴について比較分析する。</p> <p>③予習（120分） 企業のWebサイト、官公庁（特に危機管理部門、防災部門）のWebサイトを調べ、企業、官公庁がクライシスマネジメントに果たす役割を確認する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>④復習（120分） 授業を元に、企業のWebサイト、官公庁のWebサイトに掲載されている役割のほか、企業、官公庁に必要な役割をまとめる。（レポート提出）</p>										
3	<p>①授業テーマ リスクマネジメントの概要と実践（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要（120分） 企業にとってのリスクマネジメントの重要性、全社的リスクマネジメント(ERM)の構築の概要等を学び、ガバナンス・リスク・コンプライアンス（GRC）の視点からRMはどうあるべきかを事例等を通して考察する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習（120分） 企業にとってのリスクについて、書籍、Web等を通じて調べ、その重要性について、認識を整理する。</p> <p>④復習 大手企業が開示している有価証券報告書の中の「事業等のリスク」を読み（違う業種のいずれか3社）、講義内容を踏まえ考察する。（提出不要）</p>										
4	<p>①授業テーマ 日本企業の海外ビジネスの拡大と地政学リスク（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 日本企業のグローバル化の特徴、主要な海外ビジネスリスク等を学び、近年の世界的な政治・経済・社会情勢の急激な流動化に伴い、リスクが急速に多様化していることを習得する。 特に昨今急激に高まっている地政学リスクについても学び、日本企業が今後海外ビジネスを拡大する上での、管理手法等について、その基礎を習得する。</p>										

	<p>③予習 (120分) 書籍、Web等を通じて、地政学リスクについて、調べ、認識しておく。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>④復習 (120分) 大手企業が開示している有価証券報告書の中の「事業等のリスク」における海外ビジネスに関連する事項を読み (世界的に有名な日本企業いずれか3社)、地政学リスクがどのように認識されているかを考察する。(提出不要)</p>
5	<p>①授業テーマ 危機管理としての事業継続マネジメント (C1, G1, H1, H2)</p> <p>②授業概要 企業の事業継続を脅かす危機が多様化する中、危機管理としてどのように対応していくべきか、先進的な企業における取り組み事例を通じてそのポイントを学ぶ。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 事前に内閣府発行の「事業継続ガイドライン第三版 (平成25年8月改定)」に目を通しておく。(http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kigyou/keizoku/pdf/guideline03.pdf)</p> <p>④復習 (120分) インターネット上の公開情報より、事業継続に関する取り組み事例を3件 (3社) ピックアップし、そのポイントと効果をまとめる (レポート提出)</p>
6	<p>①授業テーマ 訓練やシミュレーションによる危機対応力強化 (C1, G1, H1, H2)</p> <p>②授業概要 様々な危機に備えて導入したマニュアルやツール類、各種対策を、危機発生時に有効に機能させるための取り組みである訓練やシミュレーション、その重要性と実施方法を学ぶ。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 事前に内閣府発行の「企業の事業継続訓練の考え方」(本文のみ)に目を通しておく。(http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kigyou/keizoku/pdf/06kunrenkangaekata.pdf)</p> <p>④復習 (120分) 授業の内容を元に、訓練のシナリオを作成し、1枚 (A4) にまとめる (レポート提出)</p>
7	<p>①授業テーマ サイバーインシデントが企業にもたらす危機とその対応 (C1, G1, H1, H2)</p> <p>②授業概要 サイバーインシデントの多発に如何に備えるべきか。サイバーインシデントを理解し、サイバーリスクの考え方や対応の取り組み事例を通じて、そのポイントを学ぶ。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 事前にIPA (情報処理推進機構) 発行の「情報セキュリティ 情報セキュリティ 10大脅威 2018」に目を通しておく。 (https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2018.html)</p> <p>④復習 (120分) 組織が取り組むべきサイバーリスク対応の方針について考察する。(リアクションペーパー)</p>
8	<p>①授業テーマ クライシスの発生と直後の対応 (C1, G1, H1, H2)</p> <p>②授業概要 クライシス発生直後に企業に求められる初期対応は何か。多岐にわたる同時多発的なタスクをステークホルダーコミュニケーションを含めた戦略について学習する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 過去の企業不祥事 (2件ほど) の初動について各自の視点でweb等で調べ評価する。</p> <p>④復習 (120分) 予習した事例において自らを社長に置き換えて初動タスクと対応について考える。(提出不要)</p>
9	<p>①授業テーマ 企業によるソーシャルメディアの活用リスク (C1, G1, H1, H2)</p> <p>②授業概要 企業によるソーシャルメディアの活用、ソーシャルメディアの影響の高まり、企業にとってのリスクと対応策について、事例を通じて学習する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 事前に総務省発行の「平成27年版情報通信白書」の第4章第2節の「2.SNSでの「拡散」と「炎上」」に目を通しておく。 (http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/n4200000.pdf)</p>

	<p>④復習 (120分) 企業のソーシャルメディア活用が失敗し、炎上する原因と対策や対応の方法を考察する。(リアクションペーパー)</p>
10	<p>①授業テーマ クライシスの実態調査と根本原因分析 (C 1, G 1, H 1, H 2)</p> <p>②授業概要 発生事実の把握とその根本原因の分析は全ての出発点となる。事例を通してその手法を確認する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 公表されている企業の不正不祥事等の調査報告書をWebで1例入手し、熟読しておく。</p> <p>④復習 (120分) 実態調査の目的、ポイント等をA4用紙1枚にまとめる。(レポート提出)</p>
11	<p>①授業テーマ クライシスと再発防止策 (C 1, G 1, H 1, H 2)</p> <p>②授業概要 自然災害や不祥事でダメージを受けた後に企業は何をすべきか。ガバナンスの見直しの観点から、良い事例、悪い事例をもとに学習する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 過去に発生した自然災害1件、不祥事1件について、企業(特定の1社で可)に与えた影響をweb等で調べ確認する。</p> <p>④復習 (120分) 予習した事例について、その企業は災害や不祥事にどのような対応をすべきだったかまとめる。(レポート提出)</p>
12	<p>①授業テーマ 経営危機と事業再生 (C 1, G 1, H 1, H 2)</p> <p>②授業概要 企業にとってのクライシスの経済的側面(経営危機)とResponse/ Recoveryとしての事業再生の概要を学ぶ。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 新聞・雑誌等の記事の中から、経営危機にある企業に関する記事をひとつ選び、記事の要点を説明できるようにしておく。(記事は、できるだけ事案の概観の分かる解説記事が望ましい)</p> <p>④復習 (120分) 予習で選択した企業について、授業の内容を踏まえ、経営危機に陥った背景・原因、現在どのような状態にあるかについて、400字以内にまとめる。(レポート提出)</p>
13	<p>①授業テーマ 事業再生のポイント (C 1, G 1, H 1, H 2)</p> <p>②授業概要 簡易なケーススタディを通じて、危機対応としての事業再生への取り組みのポイントを習得する。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) 授業で予定するケーススタディの設定を理解し、各設問について、あらかじめ自らの考えをまとめておく。</p> <p>④復習 (120分) 第12回授業の予習で選択した企業のケースを当てはめ、授業で紹介した事業再生のフレームワークを整理する。(レポート提出)</p>
14	<p>①授業テーマ クライシスとブランド戦略 (C 1, G 1, H 1, H 2)</p> <p>②授業概要 ブランドを構築を出来ている企業は、危機に陥った時にも強い。それはなぜか? 危機の前、危機に直面した際の戦略、危機からの回復にどうブランドが役に立つかを解説を通じて学ぶ。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例を交えわかりやすく講義します。</p> <p>③予習 (120分) ここ数年に様々なブランドがトラブルに陥っている。どのようなブランドがなぜトラブルに陥り、どのような対応をしたのかを整理しておく。</p> <p>④復習 (120分) どういう状況が「ブランドを構築している」と言えるのか、そしてなぜそのブランドはトラブルに強いのかを講義内容を振り返ってまとめる。(レポート提出)</p>

	<p>15</p> <p>①授業テーマ コロナ禍の企業リスクとニューノーマル（C1, G1, H1, H2）</p> <p>②授業概要 コロナ禍の経営環境で企業の経営者は何を感じどう行動しているのかをデロイトの行った不正リスク調査の結果と世界経済フォーラムのジャパンリージョナルアクションの宣言内容を紐解き考察する。またコロナ禍を踏まえたニューノーマルで企業のオペレーションはどの様に変化したのかを取りまとめ、今後の方向性を占う。</p> <p>③予習（120分） 昨年からの2年間のを復習しておく。</p> <p>④復習（120分） 1年間を振り返り5大ニュースを考える（レポート提出）</p>
関連科目	「危機管理学概論1（RMGT 1301）」（1年前学期開講）
教科書	各回の講師により当日配布又は投影します。配布用資料は1週間前までにLive Campusにアップします。
参考書・参考URL	開講時に指示します。
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフィスアワー：原則：金曜日3限目（2階講師室） ■ 連絡先：開講時に連絡する
研究比率	

